

京都橘大学総合心理学部 ・ 柴田利男「総合心理学部長」

心と行動を起点として社会の「？」を解き明かす

1 「総合」という意味

京都橘大学の健康科学部心理学科は、2023年度から新たに「総合心理学部総合心理学科」として再スタートを切った。

そもそも心理学が扱う研究分野は非常に幅が広く、哲学、教育学等の文系領域だけではなく、生物学、脳科学などの理系分野とも深い関連がある。研究方法においても自然科学的方法論が基礎になっており、統計的解析も重要な研究手法の一つである。このように心理学とは、文系と理系、基礎と応用の融合した学際的な学問分野である。こうしたさまざまな学問分野の知見を取り込みなが

ら、人の心と行動の解明に取り組み、多様な分野で役立つ知識と実践力を育むこと、これが旧心理学科の教育目標であった。新しく設置された総合心理学部総合心理学科もこれを受け継ぎ、さまざまな研究領域を「総合」的に学ぶためのカリキュラムを展開している。

そして、この「総合」にはもう一つの意味がある。これまでに健康科学部の一学科として、主に医療系他学科との教育・研究上の連携を図ってきたが、独立した学部になったことにより、京都橘大学の他学部他学科、すなわち児童教育、経済、経営、情報工、建築デザインなどの幅広い連携を想定し、クロスオーバー型授業やPBL(Project Based Learning)科目などを取り入れたカリキュラムを構成している。

2

多岐にわたる5つの専門領域

一般に心理学というと心理臨床、心理カウンセリングがイメージされることが多いと思われる。心理臨床の基礎を学び、心の問題を抱えている人を理解し、回復への援助を目指すのが「臨床心理学領域」である。しかし、心理学が対象とする研究領域はそれだけではなく、多岐にわたっている。

「社会・産業心理学領域」は、行動経済学、消費者行動論、組織心理学、コーチングの研究も取り入れて学び、ビジネス社会での即戦力を目指す。「発達・教育心理学領域」は、子どもの健やかな成長を支援する専門家の養成を目指すとともに、高齢化社会に対応した高齢者の心理学的研究も視野に入れている。「健康・福祉心理学領域」は、高齢化や医学の進歩を背景に、病気や障害とともに生きる人々を援助し、福祉・医療など多様な業種で活躍できる力を身に付けることを目的としている。そして「行動・脳科学領域」は、心と行動のメカニズムに関する基礎的研究領域である。もちろん国家資格・公認心理師の養成カリキュラムにも対応している。

3

データサイエンスの基礎を身に付ける

新カリキュラムでは、旧心理学科で展開していた統計法、データ解析に関する科目と、社会・産業心理学領域の社会調査法や演習科目を再編成し、心理学を基軸とするデータサイエンス科目群として整備した。この科目群を通して、心理学に限らず卒業後の職業生活においても有用と考えられるデータサイエンスの基礎を全学部生に学ばせることで、実証データに基づいて人の心や社会的課題を解明する能力、ビジネスにおいて活用できるスキル、対人支援に取り組める能力を養う。

4

心から社会の「？」を解き明かす

以上のように、総合心理学部総合心理学科では、心理学を「総合」的に学び、深い理解と高い専門性および広い視野を持つて、心理学の理論や技法を実践する力を総合的に身に付けていく。ここでの学びを通して、心と行動という観点から、個人や家庭、学校、企業など、さまざまな場面における課題の解決や発展に貢献できる人材を養成していきたい。